

2022年3月期通期 決算説明会 主な質疑応答
(開催日：2022年6月6日)

Q1：2023年3月期の業績見通しで、原材料高騰に対応する価格転嫁と進捗状況について教えて欲しい。

A1：ナフサ価格連動を取り入れている取引先はタイムラグが発生してくるため、それ以外については、早期に値上げ交渉を完了させるよう指示している。断続的な高騰には次期値上げも準備している。

Q2：光硬化樹脂用材料の販売状況、今後の見通しについて教えて欲しい。

A2：霞工場第1プラントに投資した際は、市場の旺盛な需要から想定以上の受注があり、3年程度で投資額を回収できた。その後、第4プラントを稼働させたが、米中貿易摩擦に巻き込まれるなど販売は低迷している。但し、需要については底堅いと考えており、ユーザーと情報交換する中で今年度後半より小幅ながら回復してくると予測している。

Q3：四日市市霞工場の第3、4プラントの稼働率はどのような状況か。

A3：第3プラントの製品は自動車関連向けも多く、足元で自動車減産の影響を受けている。将来的にはEVの普及に伴い、電子材料、センサー、コンデンサに関わる製品への販売増加を期待している。

第4プラントは半導体不足等の影響もあり、低稼働の状態が続いている。一方、ユーザーからの要望に備えて常にフル稼働できる体制を維持している。下期以降に需要が回復してくれば、稼働率も上向き見通しである。

Q4：先期、ウレタン材料セグメントの営業利益が黒字化している。売上増加か、あるいは固定費削減によるものなのか。

A4：自動車産業の需要回復を背景に販売数量が伸長し、黒字化した。また、顧客別研究センターの設置など研究開発部門の組織も刷新し、効率化を進めたことも大きい。

Q5：経営層の新体制人事の紹介があったが、研究開発に注力し、中長期的に取り組む体制なのか。

A5：今期見通しはWFに記載した通り、販売数量は減少する予測である。これは採算是正の際に一部失地したことに因るものだが、次の新製品が出てこないことも影響している。研究開発の新体制は昨年度から整えており、中長期的な販売増加につなげたい。

以上